

# 「新・いわき市水道事業経営プラン」を策定しました

## 策定の趣旨

水道局では、市民生活を支える水道システムを健全な姿で次世代に引き継いでいくため、平成 18 年度に、「いわき市水道事業経営プラン」を策定し、各種施策の推進や経営の効率化など、健全な事業運営に努めてきました。

この間、本格的な人口減少社会の到来や、拡張期に整備した施設の老朽化が進むなど、水道事業を取り巻く状況は大きく変化しました。

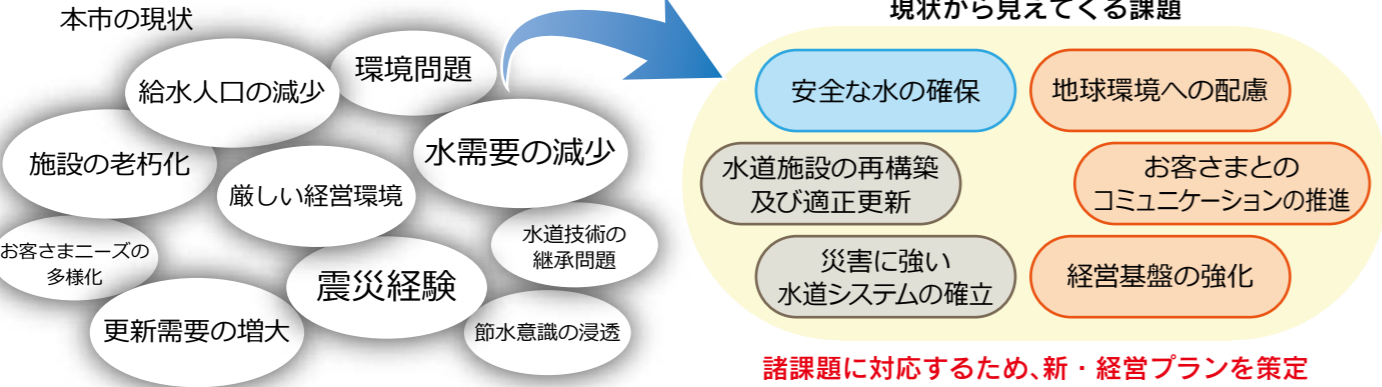
この度、これら経営環境の変化に的確に対応するため、現行の経営プランの終了にあわせ、平成 29 年度を初年度とする「新・いわき市水道事業経営プラン」を策定しました。



## 計画の構成と期間

「新・いわき市水道事業経営プラン」は、本市水道事業の理念、施策の方向性及び目標を定める「基本計画」（10 年間）と、その目標を達成するための取組（施策）を定める「中期経営計画」（5 年間）で構成しています。

## ● 本市水道事業の現状と課題



## ● 「新・いわき市水道事業経営プラン」の構成と概要

基本理念は、従前の「未来に引き継ぐいわきの水道」を継承しています。

### 「未来に引き継ぐいわきの水道」～安全でおいしい水を必要なだけ～

水道事業を取り巻く諸課題に対処するために、目指すべき方向性を「安全」、「強靱」及び「持続」の三つとしています。

**安全**

**安全** でおいしい水道水の供給  
水源から蛇口までの一元的な対策の推進により、安心して飲める水道を目指します

**強靱**

最適で**災害に強い** 施設・体制の整備  
水需要や震災経験を踏まえた水道システムの見直しにより、効率的で災害に強い水道を目指します

**持続**

**持続** 可能な経営基盤の確立  
本格的な人口減少社会にあっても、不断の経営努力により、持続性のある水道を目指します

方向性のもとに 11 の目標を掲げ、お客様の視点に立って取組を計画的かつ効果的に実施していきます。

- ・良好な水質を保持します
- ・適正な水質管理を維持します
- ・安心して飲める水道の普及促進に努めます

- ・施設の最適化と安定化を図ります
- ・施設の健全化に努めます
- ・非常時対策を強化します

- ・専門性の維持とスキルアップに努めます
- ・財務体質と組織の強化に努めます
- ・環境負荷低減に努めます
- ・お客さまとのコミュニケーションを推進します
- ・水道サービスの向上に努めます

取組（施策）  
中期経営計画（平成 29 ～ 33 年度の 5 年間）  
業務指標

基本計画で掲げた目標を達成するため、38 の取組（施策）のもとで事業を展開します。  
また、29 の事業については、事業の具体的な目標値を「業務指標」として設定し、事業の進行管理をしていきます。

### 主要な事業 1 老朽管更新事業

老朽施設の更新需要の増大に対処するため、「老朽管更新事業」を最重要事業に位置付け、老朽管更新のスピードアップを図ることで、健全性の維持に努めていきます。

業務指標	平成 27 年度	平成 33 年度
管路の更新率	0.73%	1.16%



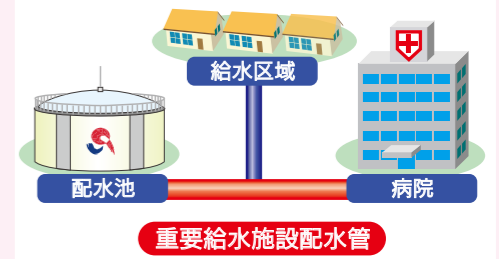
※目標事業量（目標とする年間更新延長）を 26km/年と定めて老朽管更新事業に取り組み、更新のスピードアップを図ります。  
※管路の更新率は、市内の総管路距離数のうち、その年に更新した老朽管の距離数。

### 主要な事業 2 重要給水施設配水管整備事業

東日本大震災の経験を踏まえ、重要給水施設である「救急病院」、「人工透析病院」までの配水管を優先的に耐震化することで、災害時の確実な給水に努めていきます。

業務指標	平成 27 年度	平成 33 年度
重要給水施設配水管路の耐震管率	34.0%	39.0%

#### ● 重要給水施設配水管整備イメージ



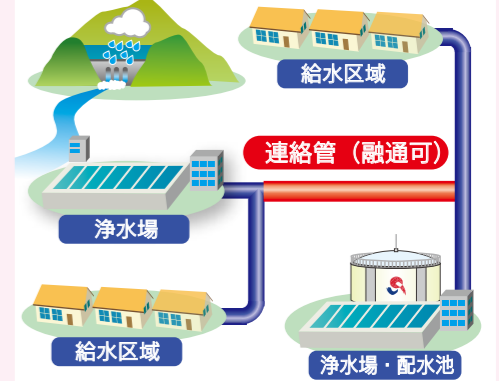
※平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間は、施設の重要度や緊急性を考慮して、8 施設を選定しています。

### 主要な事業 3 基幹浄水場連絡管整備事業

平常時の効率的な配水運用や、災害・水質事故等の非常時の安定給水を可能にするため、既存施設の更新を兼ねながら、基幹浄水場間で相互融通できる水系幹線等の整備を進めていきます。

業務指標	平成 27 年度	平成 33 年度
基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率	平・鹿島水系幹線（若葉台～中央台ポンプ場）	40.0% → 100.0% (平成 31 年度完成予定)
	鹿島・常磐水系幹線	0.0% → 53.8%

#### ● 連絡管の整備イメージ



※中央台及び小名浜地区へのバックアップを可能とするため、平成 31 年度までに平・鹿島水系幹線を整備することとしています。  
また、常磐地区へのバックアップ強化のため、平成 28 年度から着手した鹿島・常磐水系幹線の整備を継続することとしています。

中期経営計画の 5 年間は、水道料金収入が減少する一方で、老朽化した施設の更新を進める必要があるなど、厳しい状況にあります。予定する取組（施策）を継続して実施した場合でも、計画の最終年度である平成 33 年度末の資金残高は 35 億円程度が確保できる見込みです。

財政計画

「新・いわき市水道事業経営プラン」の全文は、水道局ホームページに掲載しています。<http://www.city.iwaki.lg.jp/suido.html>